

○伊地知美知子* 小林茂雄**

(*文教大、**共立女子大)

<目的> 昨年度の第50回大会では仮装行為における心理状態について、その役を演じた本人自身の評価について報告したが、今回は自己評価と他者評価とを比較しながら両評価の関係について考察した。

<方法> 実際に「1日仮装」を行った大学生(美術専修)45名に仮装後に、質問紙によるアンケート調査を実施した。調査内容は、役柄と着装、仮装時の気分、性格などである。また45名中「その役になりきれた」と自己評価した人の中から10名を選び、仮装当日撮影した写真をもとに他専修の学生22名に、その役を演じた人の気分、性格などを他者評価してもらった。

<結果> 45名の自己評価について、仮装時の気分の評価データを因子分析した結果、陽気(因子寄与率34.9%)、臆病(15.7%)、緊張(13.8%)の3つの基本的因子が抽出された。これらの因子の因子得点を用いウォード法によるクラスター分析を行ったところ、臆病と緊張にそれぞれプラスとマイナスに反応した4つのグループに分かれた。次に10名の自己評価と22名の他者評価について、気分の評価データを因子分析した結果、活発(因子寄与率26.3%)、陽気(24.5%)、不安(14.9%)、緊張(14.7%)の4因子が抽出され、また、性格の評価データの因子分析からは、積極的(因子寄与率33.6%)、おしゃべり(26.1%)、感情的(15.3%)、大まか(13.8%)の4因子が抽出された。自己評価と他者評価の平均因子得点間でt検定を行った結果、気分の「陽気」と、性格の「感情的」に有意差が認められた。